

マルシェとサロンでつなく 地域交流

湯の谷マルシェのはじまり

「じゃあ、ここでやったら？」
自分たちの商品を地域の人たちに知ってもらおう『場』と『チャンス』が少なかつた4年前、《場所提供が可能な湯之谷温泉を有効活用してもらえらるなら!》と、2014年9月7日(日)、この一言から湯の谷マルシェは始まりました。野

特集

3

西条市



(有)湯之谷温泉
代表取締役 女将
藤田 和千恵

菜、せんべい、焼き菓子でわずか4店でのスタートです。

旅館業を営むうち、西条市には魅力的な素材がたくさんあることに気付きました。そしてそれらがまだまだ埋もれていることにも。豊かで美味しい水があり、それを活かした

拘りの農産物があり、ライン生産では表現できない温かい手作り作品の作家さんもたくさんいます。《身近にありすぎて空気のようになっているのが当たり前で見逃しそうになるものの中に地域の大切な財産が眠っている。もったいない。少しでも多くの人に知ってもらいたい。》以前から持っていたその想いが形になりはじめるきっかけとなった瞬間です。

西条市と湯之谷温泉

西条市は霊峰石鎚山の恩恵を受け、《うちぬき》の水が美味しいことで有名



湯の谷マルシェの様子

なまちです。石鎚山系の伏流水《うちぬき》で育つ野菜や果物、作られる日本酒は美味く、はだか麦は日本一の生産量を誇っています。

その西条市に位置する《湯之谷温泉》の歴史は約1400年。伊予の三古湯のひとつと言われ、斉明天皇が入湯された記録が残っています。

江戸時代の文献(郷土史研究の宝典)

『西条誌』には、『西条藩奉行の竹内立左衛門が、湯之谷と称する処に自噴する泉水を霊泉水として加温し、湯治に利用した。』と病氣怪我治療に用いたことが書かれています。明治時代には1等湯・2等湯と別れた浴場ができ、旧西条市内や遠方からは人力車で通うという、高級な温泉時代がありました。大正元年に公衆浴場としてオープンし、これが現在の『湯之谷温泉』の始まりです。

入湯宿泊の便をはかるために、温泉を取り込んだ湯治宿が建設され、療養泉として親しまれ、戦後からは米を持参して湯治に行くという独特な時期も経ながら今のスタイルへと至り、大正元年から今年で107年目を迎えています。

「細くてもいいから長く続けられるマルシェにしよう!」

湯の谷マルシェをスタートするにあたって決めたルールは、『自分の手が加わった手作り品』であることと『絶対無